

# 200 カイリ水域内漁業資源総合開発調査

本永文彦（魚類）、渡辺利明\*（アオリイカ）、金城清昭（卵稚仔）

本調査は国庫委託を受けて昭和52年より継続実施している。

## 目的および内容

沖縄県水域内における重要漁業資源を、科学的根拠に基づいて資源管理を行なうのに必要な漁獲統計および生物情報を収集することを目的とする。底魚類については標本船として糸満漁協所属の底立延縄船1隻、伊良部漁協所属の曳縄船1隻を指定して漁場、魚種別漁獲量等の報告を受けた。生物測定調査は県内市場に水揚げされたグルクマ、メアジ、タイワンカマス、タチウオ、アオリイカを購入して測定した。卵稚仔量調査は漁況海況予報事業の沖合定線から3回、沿岸定線から12回の卵稚仔採集を行なった。

なお本調査にあたり標本船の報告を快くひき受けてくださった方々、標本魚の購入に便宜を図ってくださった仲買人、および関係漁協の方々にお礼申し上げる。

## 方 法

### 1. 漁獲状況、漁業資源生物調査

#### イ) 標本船調査

糸満漁協所属の底立延縄船および伊良部漁協所属の曳縄船を、標本船として指定して毎月の出漁日、漁場位置、魚種別漁獲量の報告を受ける。

#### ロ) 生物測定調査

沖縄島沿岸定置網で漁獲されるグルクマ、メアジ、タイワンカマス、タチウオ、アオリイカの体長、体重、性別、生殖腺重量、成熟状態、胃内容物組成と重量を毎月購入し測定する。

### 2. 卵稚仔量分布調査

久米島北西沖合定線を5、8、2月の3回、沿岸定線は毎月、口径60cmのノルパックネットを用いて斜曳採集を行なう。

## 結 果

1) 定置網の対象魚種については、その季節変動などは漁況海況予報事業での調査で、知られるようになっている。主要魚種の多くが、年に2回の漁獲ピークをもち、産卵群と索餌群（当歳魚）が漁獲されているようである。

2) 春～夏季にみられる最初の漁獲ピークは、生殖腺の観察から産卵による集群であると推定された。

3) 夏季以降当歳群の加入があるが、多くの魚種が浅海域を生息場とするため大量に漁獲される機会が多い。これについては資源の合理的利用からの検討が必要とされる。

\*現在の所属：沖縄県栽培漁業センター

4) ただ今、調査の対象とした上記の5種について、その成長、産卵期、分布などについて整理中である。得られた生物情報を基に、定置網漁業の漁況予測の可能性、資源の有効利用について検討していく予定である。調査結果の詳細について、まとまりしだい早急に報告する。